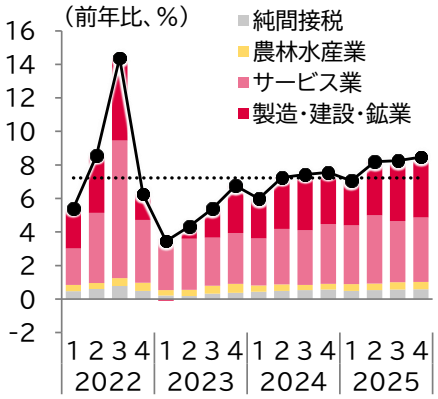
ベトナム

GDP（2025年10-12月期）

内需・外需ともに堅調を維持し、3四半期連続で成長加速

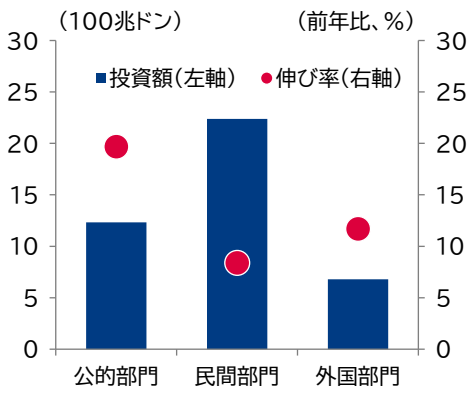
政策・経済センター
田中嵩大
03-6858-2717

1 実質GDP成長率（産業別）



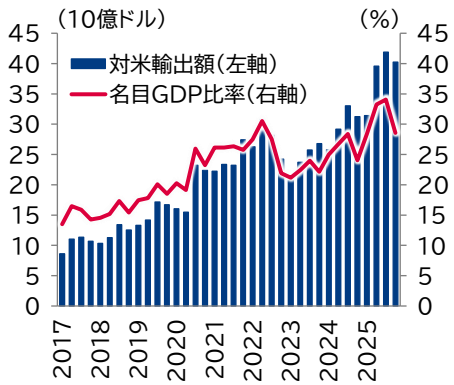
注：破線は2017-19年の四半期別成長率平均。
出所：ベトナム統計局を基に三菱総合研究所作成

2 主体別投資額（25年）



注：名目。支払い額ベース（Disturbed investment）
出所：ベトナム統計局を基に三菱総合研究所作成

3 対米輸出額・GDP比



注：名目GDPシェアは、GDPを期中平均為替レートで米ドル換算にしたうえでを算出した。
出所：ベトナム統計局、Macrobondを基に三菱総合研究所作成

4 対米貿易協定の枠組み

25年10月26日公表
ベトナムは米国産の工業製品・農産物の殆どに対し優遇的市場アクセスを提供する
米国はベトナム原産品に対する相互関税率を20%に維持する
優先分野における非関税障壁で協力する
ベトナムは自動車や農産物の非関税措置に対する米国の懸念に対処する
知財・労働・環境・国有企業等で協力する
関税回避対策や輸出管理協力を含む供給網の強靭性強化にコミットする
ベトナムは米国から航空機や農産物を購入する

出所：ホワイトハウス資料を基に三菱総合研究所作成

評価ポイント

今回の結果

- 25年10-12月期のベトナム実質GDP成長率は前年比+8.5%と3四半期連続で伸び率が加速した（図表1）。
- GDP成長率を産業別に見ると、「製造・建設・鉱業（同+9.5%）」、「サービス業（同+8.8%）」が伸び率を拡大させた。
- これによって、25年通年での成長率は同+8.0%となった。政府目標である「同+8.3~8.5%」は下回ったものの、15年間で2番目の高成長となった。

基調判断と今後の流れ

- ベトナム経済は内需・外需ともに力強い成長が続いている。
- 内需では、公共投資が景気を押し上げている。主体別の投資額を見ると、公的部門の伸び率が高い（図表2）。これまで公共事業の執行の遅れが指摘されてきたベトナムだが、成長実現に向け政府は執行を加速させている。
- 外需では、対米輸出が引き続き拡大している。相互関税の導入に伴い、駆け込み輸出の反動が懸念されたが、10-12月期も前年比+29%と高い伸びが続いており、成長を牽引している（図表3）。
- 品目別には、PCや電子機器などの輸出が高水準で推移している。これらは相互関税の対象外となっているものも多く、対米輸出が好調な一因と考えられる。
- ベトナム政府は26年成長率目標に「10%超」という高い水準を設定しており、先行きも政策支援の後押しもあり堅調な成長を続けると見込む。
- 注目点は対米貿易交渉の行方だ。現在、越・米両国は二国間貿易協定の最終化に向けて交渉を続けている。25年10月末に公表された枠組みの中では、中国を念頭においた「関税回避対策や輸出管理での協力」との文言があるが、先行して貿易協定を締結したマレーシアやカンボジアのように（25/12/4のレポート参照）、「脱中国」を強く迫る内容となる可能性がある（図表4）。
- また、現在導入が議論されている半導体関税にPC等が含まれる場合には、対米輸出が大きく押し下げられる恐れがある。

Copyright (C) Mitsubishi Research Institute, Inc.